

冬来たりなば春遠からじ

1月20日は暦の上では「大寒」にあたり、一年で最も寒い時期を迎えています。寒さで体調を崩す児童も少なくない時期ですが、新型コロナウイルスの感染再拡大の影響が重なり、児童の健康や安全、学校生活に不安な要素が増えました。当面は、感染拡大防止を行いつつ、教育活動が最大限確保できるように努力してまいります。



「冬来たりなば春遠からじ」は、イギリスの詩人シェリー作の「西風に寄せる歌」の一節です。意味としては、「寒く厳しい冬が来たということは、暖かい春が目の前まできている。」であり、「今はとても辛くて厳しい状況であっても、春（希望）がそこまでやってきているから、頑張ろう。」という例えにもよく使われます。

冬が来たというのは、もちろん季節の上での寒い時期を迎えたという意味ですが、ここしばらくは、新型コロナウイルスの感染拡大により、教育活動に制約を設けなければならず、学校生活にマイナスの影響がでていと捉える意味もあります。しかしながら、この厳しい冬の状況を頑張っ乗り越えれば、必ず元通りの学校生活が返ってくる、春が巡りくることを信じて努力していく必要があります。

始業式の講話の中で、「新年にあたり、目標や計画を立てる大切さ」を話しましたので、実践を試みる児童がいます。18日の朝会では、2・3年生の三学期学級委員を任命しました。各学級では係活動や当番活動が、新しい体制になっています。25日からは作品展が予定され、児童は最後の仕上げに頑張っています。徐々にではありますが、学校全体で前に進んでいます。コロナ禍であっても、教育活動をできるだけ止めないことを目標に、「冬来たりなば春遠からじ」を信じて、職員一同努力してまいります。



1年生 たこ揚げ

1年生は、生活科の「ふゆをたのしもう そとであそぼう」



の授業で、たこ揚げをしました。

自分が空に飛ばしたいものの絵をたこに大きく描き、校庭で空高く揚げることができました。中には、校舎の3階の高さまで揚がる子もいて、「太陽の近くまで揚がったよ。」と喜んでいました。



3年生 平成こども塾で竹とんぼと焼き芋作り

1月12日（水）～14日（金）と18日（火）に、3年生が平成こども塾に出掛けました。昔の暮らしを体験する一環として「竹とんぼ作り」と「焼き芋作り」を行いました。



まず、焼き芋は水で濡らした新聞紙をサツマイモに包んだ後、アルミホイルで隙間がないようにくみました。それをたき火でできた置き炭の中にそっと投げ入れました。竹とんぼ作りは、板状の竹をC型クランプに挟み、やすりで薄くなるまで削ります。そして、竹板の中心をろうそくであぶり、湾曲しないよう気を配りながらひねりを加えます。竹櫛を中心に差して接着剤で固定したらできあがり。工作の間、講師の皆さんがたき火の管理をしてくださり、おいしい焼き芋ができあがりしました。

竹とんぼを飛ばしたり、焼きたての芋を頬張ったりする子どもたちは、満面の笑みでした。また、そり滑りや竹登りも大好評でした。とても実りある一日となりました。

お知らせとお願い

- 「教育活動に関するアンケート」の集計結果を2月下旬に配付します。今後の本校の教育活動に役立てるため活用させていただきます。ご協力ありがとうございました。
- 2月の口座振替日は、2月15日（火）です。前日までに口座の残高確認をお願いします。